

## 令和元年度第1回鹿沼市総合教育会議 議事録

### 1 日 時

令和元年5月16日(木) 午後2時00分～午後2時20分

### 2 場 所

鹿沼市役所特別会議室

### 3 出席した委員

市 長	佐藤 信	教 育 長	高橋 臣一
教育長職務代理者	鈴木 泉	教 育 委 員	齋藤 正
教 育 委 員	倉松 俊弘	教 育 委 員	平野 美恵

### 4 出席した事務局職員

#### (1) 総 務 部

部 長	糸井 朗	企 画 課	塩澤 孝
-----	------	-------	------

#### (2) 教育委員会

教 育 次 長	上林 浩二	教 育 総 務 課 長	高橋 年和
教 育 総 務 課	大出 知恵	教 育 総 務 課	山本 敬子
学 校 教 育 課 長	駒場 秀明	学 校 教 育 課	湯澤 正弘
学 校 教 育 課	増田 美紀子		

### 5 傍聴者

なし

### 6 決定した事項

(1) 引き続き、幼小連携事業を推進すること。
-------------------------

### 7 会議の概要

#### (1) 開 会 (進行：高橋教育総務課長)

#### (2) 挨拶

##### ア 市長挨拶

本日は、令和元年度1回目の総合教育会議に出席をいただき、誠にありがとうございます。教育委員会の皆様には、日頃から市政に関し、様々な面からのご支援、ご協力をいただき、この場をお借りして感謝を申し上げます。

5月1日から元号が「令和」となり、本市でも特設窓口の開設や天皇陛下御即位奉祝(ほうしゅく)御記帳所をロビーに設置するなど新たな時代への幕開けを市民の皆さんとお祝いいたしました。12日(日)に、教育委員の皆さんにもお世話になりましたが、10,762名がエントリー、9,513名のランナーをお迎えして、県内では「令和」初のマラソン大会となる「第39回鹿沼さつきマラソン大会」を開催いたしました。今月は、25日(土)から鹿沼さつきまつりが始まります。花火大会も実施され、これからイベント盛沢山であります。皆さんにも積極的なご参加をお願い申し上げます。「総合教育会議」も平成27年の新教育委員会制度に伴い創設され、今年で5年目となります。制度創設以降、児童生徒の生命及び身体に被害が生じる事件も発生せず、緊急の総合教育会議を招集することなく本日を迎えることができたことは、市長部局と教育委員会の危機意識の共有があったからであると思っております。昨年の総合教育会議で協議いたしました「学習指導要領改訂に伴う教育ICT整備について」は、当初予算の主要事業に位置付けまして、今年中に全小学校にタブレット配置、全中学校のパソコン更新を完了させた

いと考えております。

他に「北小学校整備事業」「英語教育の拡充」「図書館エントランスリニューアル」なども主要事業といたしました。市民にとって効果的な教育の施策が図れるよう、これまで以上に市長部局と教育委員会が密接な連携を図りながら、一体となって進めてまいりたいと考えております。本日は、幼少連携の経過報告等を予定しておりますので、委員皆さんの忌憚のない意見を願い申し上げ、挨拶いたします。

## イ 教育長挨拶

本日は、今年度第1回目の総合教育会議を開催いただき、誠にありがとうございます。市長のご挨拶にもありましたが、制度創設以降、緊急の総合教育会議を招集することなく本日を迎えることができました。委員の皆様には、日頃よりご尽力いただきまして、この場をお借りいたしまして感謝を申し上げます。教育委員会において昨年度も様々な取り組みを行ってまいりました。今年3月「鹿沼市小中学校における働き方改革推進プラン」を策定いたしましたので、今年度は、実施に向け積極的に取り組む所存であります。また、「鹿沼市における部活動に関する方針」も策定いたしました。各学校が実態に即した形で工夫・改善を行うことで、部活動が児童生徒にとって、より充実したものになりますとともに、指導に関わる教員の負担軽減、働き方改革に結びつくよう徹底いたしたいと思っております。4月には、「鹿沼市熱中症対策ガイドライン」を策定いたしました。熱中症は死に至る可能性のある病態ではありますが、予防法を知って実践することで完全に防ぐことができますので、各学校に周知し、徹底してまいります。今年度も、総合教育会議で策定した本市の「教育大綱」の基本理念である『学びから未来をひらくひとづくり』に基づいた事業を実施してまいりたいと考えております。4月15日に東館から市民情報センターに移転して1カ月が過ぎました。職員をはじめ、落ち着いてきた感があります。今後は、教育行政が集約された効果を発揮するとともに、こども総合サポートセンターとの迅速な対応と連携を図ってまいります。更に、市長部局との連携の維持連携を強化することが、本市の様々な課題解消につながり、より良い鹿沼市が築いていけると期待しております。教育委員会としても、本市教育行政の推進に努めるので、引き続き、ご支援をお願い申し上げまして、挨拶いたします。

## (3) 報告

### 幼小連携について

幼小連携について説明させていただきます。平成29年3月31日に公示された「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」では、幼児教育としての共通性の確保、つまり、「横の連携」がうたわれました。また、同時に公示された小学校学習指導要領では、幼児教育と小学校教育を貫く柱の確保つまり「縦の連携」がうたわれました。幼児期に育みたい資質・能力「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間力等」は、小学校・中学校・高等学校においても育成すべきものとして提示されております。幼小連携において、その大きな拠り所とされるものが、「スタートカリキュラム」というものでございます。資料P4をご覧ください。小学校に入学した児童が、幼児期の遊びや生活を通した学

びや育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、学ぶことができるようにするための、生活科を中心とした合科的なカリキュラムのことでございます。本市においては、教育ビジョンの基本計画Ⅱ期の中の、幼小連携に関することにおいて、次の4点が挙げられております。まず、「幼小連携のための研修会の充実」ですが、これは、平成27年度より毎年実施しており、小学校と、幼稚園・保育所・こども園の教職員が合同で、研修や情報交換を行ってまいりました。また、「幼児と児童の体験的な交流活動」については、各学校において、生活科における「おもちゃ大会」への園児招待や、地域探検として、小学生の園訪問といった様々な取組を進めていただいております。さらに、今後、より一層の幼小連携をめざし、各幼児教育施設長、小学校長による「推進協議会の組織化」を考えております。「スタートカリキュラムの編成・実施」につきましては、市内全小学校で100%編成・実施済みではありますが、形骸化されているところも散見されており、「幼児教育の成果を生かし」という点に関しましては、やはり、見直しの必要性があると考えてまいりました。平成30年度、栃木県教育委員会より、「幼小ジョイントプロジェクト事業」の指定を受けました。そこで、本事業において、鹿沼市立菊沢東小学校と認定こども園仁神堂幼稚園の1校1園をモデルとして指定し、モデル校のスタートカリキュラムを幼児教育と小学校教育の両方の視点で見直しを図ることを事業のゴールといたしました。実際には、資料P5にございますように、小学校における授業公開、幼稚園における保育公開、幼児と児童の交流活動といった5回の活動をふまえて、スタートカリキュラムの見直しを進めてまいりました。なお、この事業成果につきましては、平成31年2月18日（月）に実施した幼小連携のための研修会において、発表いただきました。今後ですが、5月17日・24日に、幼小連携推進委員会を実施いたします。これは、今年度設置した委員会で、市内小学校教諭5名に推進委員を依頼し、まずは、モデル校のスタートカリキュラムをベースに、推進委員所属校のスタートカリキュラムを先行して、見直しを図っていただきます。その後、6月17日の幼小連携のための研修会、こちらは、各小学校の幼小連携担当者にお集まりいただきます。そこで、5名の推進委員を中心に、各校のスタートカリキュラムを見直しいただきます。来年2月14日の幼小連携のための研修会では、市内の各小学校及び幼稚園・保育所・こども園の先生方にお集まりいただき、各小学校で見直しいただいたスタートカリキュラムを共有し、情報交換をしていきたいと考えております。その後、各校のスタートカリキュラムを、市内の全幼児教育施設に提示し、共有化を図っていきたいと考えております。スタートカリキュラムは、作成することが目的ではなく、見直しの過程と、どう生かしていくかが、とても重要であると考えております。実際に、先の事業で、スタートカリキュラムを見直したことで、資料P6の、生活科と各教科との関連を見通すことができる「単元配当表」や、資料7・8の「学習指導計画予定表」の必要性にも気付かれ、作成に着手していただきました。特に、「学習指導計画予定表」に関しましては、いわゆる授業実施時数管理のためのもではなく、「子どもたちの自主性を重んじること」が目的とされ、そのための教師の姿勢として、示していただきました。具体的には、こんな言葉が示されております。小学校では、1年生をいわゆる何もできない子どもとし

て受け止め、教師主導で、幼児教育と切り離し、小学校とは、という概念を押しつけてしまうなど、子どもたちを小学校の枠にはめてしまいがちなことは否めません。幼稚園・保育所・こども園の先生方からも、あんなにいろいろなことができるようになって卒園していったのに……。という声が聞こえることもございます。幼児教育の中で、子どもたちは、多くの資質・能力を身につけ、自信をもって、小学校に入学してまいります。そんな子どもたちの「できる」自信や、「幼稚園・保育所・こども園での経験と同じだ」という安心感を大切にすることで、子どもたちの主体性を大切にすることができると考えております。そのためには、子どもたちに関わる教職員の「教育観」「子ども観」の相互理解を深め、教育・保育の質の向上を図っていくことをめざしてまいります。各小学校において見直されたスタートカリキュラムが、その一助を担うことに繋げていけたらと考えております。

<幼小連携事業に対する教育委員会の意見等>

鈴木委員 午前中、菊沢東小学校を訪問してきた。校庭では翌日の遠足の予行練習もかねて仁神堂幼稚園児が先生と遊んでいた。道路を渡ることも予行練習の一つだとも園長が話していた。園児と児童が自然な形で交流を深めることや、幼児教育で身につけた多くの資質・能力を小学校で自信をもって発揮できるような教職員の相互理解は大切である。文部科学省でも力を入れている事業なので、引き続き推進してほしい。

教育委員会から報告のあった「幼少連携」については、引き続き推進していくことで了承した。

(4) 閉 会